

No. 27

東京ブランチャ第8回合宿のご案内

第8回合宿研修会をつぎのとおり開催いたします。みなさんのご参加を心からお待ち申し上げます。

- と き 95年3月25日(土) 10am～26日(日) 3pm
 ところ 埼玉県立上尾スポーツ研修センターほか
 会 費 ¥16,000(1泊2日)
 定 員 80名(先着順)
 内 容 SCD講習・講師: Hel and Ellie Briscoe 夫妻(Virginia Branch)
 演奏: Elke Baker (Fiddle) and Liz Donaldson
 (Piano) の Duo Group 'Terpsichore'
 Ellie Briscoe さんはBook 38 "Follow Me Home"の作者です。
 運 営 東京ブランチャ役員ならびにボランティア
 申込み方法 同封の郵便振替用紙(郵便局備え付けの用紙でも可)の通信欄に
 「合宿参加希望」と記入し、会費とともに
 口座番号 00160-9- 64023
 加入者名 RSCDS東京ブランチャ
 あて個人個人で申込んでください。
 申込み締切 95年1月20日(消印有効)または定員になり次第締切。

10周年記念ダンス講習会

さる10月、全会員に10周年記念ダンスブックをお送りしました。各方面からのダンス講習希望の声にこたえて、作者みずからの指導講習を企画しました。賀詞交歓もかね、ふるってご参集ください。

- と き 95年1月29日(日) 1～5pm
 ところ 千代田区総合体育館・2F剣道場(神田駅5分)
 会 費 800円(非会員1,000円)当日受付け
 講 師 稲垣俊・星野薫・鳥山豊喜・渡辺清一・松岡重希の皆さん(予定)
 内 容 "Tenth Anniversary Collection of SCD's and Tunes"の中から

第3回SCDフェスティバル・イン・東京

東京都フォークダンス連盟主催による第3回SCDフェスティバルが開催されます。

95年5月28日(日) 10am~4pm

東京都体育館(JR千駄ヶ谷駅)

午前; クラス(講習) 午後; ダンシズ(パーティ)

東京ブランチも積極的に協力します。くわしくは次号ブランチレターでお知らせします。ご予約ください。

RSCDS新人事

11月5日のスコットランド・パースにおけるソサエティ年次総会で、新しく

チェアマン ジョージ・ローソン(グラスゴー)

副チェアマン ビル・クレメント(ダンフリーズ)

が選出されました。ロンドン・ブランチによる新チェアマンへのインタビューは12ページをご覧ください。クレメント篤子さんからのレポートは次号に掲載します。

ブリティンNo.72の概要

	会員数	ブランチ数	関連グループ数	サマースクール参加者
1994年	24,563	163	502	890
(昨年)	24,839	161	504	797

○会員数は減ったように見えるが、いまだ報告のないブランチが20あり、最終的には昨年をいくらか上回ると予想される。

○資格試験はマンチェスター、セントアンドルーズ、シドニー、東京などで行ない、
予備試験 70人受験、50人合格
指導者資格 72人受験、56人合格 であった。

○1995年のサマースクールは7月24日(月)から8月21日(月)まで開催。

○いろいろなRSCDS出版物の改正年がp.64-65に載っている。左側に『*』があるものはオリジナル(発行当初のまま)、右側に『*』があれば改正版発行済みである。かつそれらの発行年を右端に記してある。1994年に発行されたものは……お探しください。

○p.69は本部事務室改装基金に寄付した人の名簿である。前年のブリティンにのらなかった東京ブランチ会員名が、この号に記載されている。

○その他バンクーバーやニュージーランド・ブランチのスクール、キルトメーカー、レコードプレーヤーの広告などもおもしろい。

本部でエグザミネーション・セミナー開催

本部から、95年サマースクールの中日にエグザミネーション・セミナーを開催するので、希望者は実施概要書を請求してほしいとの連絡がありました。(ブリティン No.72 の6ページには9月9日とありますが、下記のほうが正)

日時：95年8月6日(日) 1日のみ

場所：セントアンドルーズ

主催：試験委員会

対象：エグザミネーターおよび各ブランチ

出席ご希望のかたはブランチ・セクレタリまでご連絡ください。

10周年記念行事終る

1年有余の期間と多くの会員の積極的な活動に支えられて、東京ブランチ10周年記念行事はすべておじに終了いたしました。実行にたずさわったかた、参加していただいたかた、いろいろな作品、原稿を寄せてくださったかた、皆さんにお礼申し上げます。ビル・アイアランド、ジェニファー・ウィルソン両氏による各地での講習会、10周年記念ダンスブック、記念誌、Tシャツとバナー、そして掉尾をかざる記念ボールを通じて、スコティッシュ・カントリー・ダンスを踊る皆さんの心がいつそう通いあったと思います。記念行事の概略はつぎのとおりでした。

1. 講習会

福岡会場	9月10日・11日	宗像勤労者体育センター	60名参加
長岡会場	9月13日	長岡市中央公民館	のべ120名
能代会場	9月15日	山本広域交流センター	53名
岐阜会場	9月17日・18日	長良川スポーツプラザ	のべ70名
東京会場	9月23日・24日	川越市・年金保養センター	104名

2. 記念ボール

東京	9月25日	晴海・ホテル浦島	227名
----	-------	----------	------

3. ビル・アイアランド、ジェニファー・ウィルソン両氏歓迎レセプション

歓迎会	9月8日	レストラン高松	11名
懇親会	9月24日	レストラン高松・銀座	33名

4. 記念誌発行 A4判 全20ページ 全会員に無料配布

5. 記念曲・ダンスブック発行 B5判 全20ページ 全会員に無料配布

6. Tシャツ制作 記念ロゴ入り サイズS.H.L. 計1,000枚

7. バナー制作 記念ロゴ入り Mauve. Blue 計 800枚

東京ブランチ10周年を祝ってロイ・ゴールドリング氏(英国リーズ・ブランチ)が作ってくれた32 Bars Jig "East of the Sun" は10ページをごらんください。また、入手が遅れたために記念誌に載せられなかったRSCDS 前セクレタリ、ミュリアル・ギブソンさんのメッセージ、パリ・ブランチからのメッセージ、皆さんからの講習会感想、そしてビル・アイアランド氏からの日本印象記を以下にします。

<東京ブランチ10周年を祝う> RSCDS 名誉副会長 ミュリアル・ギブソン
Muriel Gibson, Hon. Vice-President

The Scots and the Japanese have long had links with each other and many Scots were to be found in Japan in the 19th century for commercial reasons. In 1878 a St. Andrew Society was founded in Yokohama and still thrives as the St. Andrew Society of Yokohama and Tokyo. So perhaps the Japanese had a taste of Scottish dancing before the Royal Scottish Country Dance Society came on the scene.....

貿易の分野で19世紀に多くのスコットランド人が日本で活躍して以来、スコットランド人と日本人とは親しい間柄にありました。1878年(明治11年)、横浜でセント・アンドルー協会が発足し、いまでは横浜東京セント・アンドルー協会に発展しています。RSCDS が身近になるまえに、もしかしたら日本人はスコティッシュ・ダンスの香りを感じとっていたかもしれません。

池間博之さんが「東京にもブランチを作るべき時期にきている」と提言されたとき、私はソサエティのセクレタリをつとめていましたが、サマースクールで池間さんと真剣に議論を重ねたことがいまでも思い出されます。日本人会員だってきちんとダンスできると信じていました。日本の会員はスコティッシュ・ダンス(ハイランド・ダンスとカントリー・ダンス両方です)の踊り方と精神を理解していましたし、ミス・ミリガンからじかに教わったテクニックで正確に踊っていました。

でもブランチの発足が近づくとつれ、私たちは心配になりはじめたのです。初めてであるがゆえに言葉はむずかしかり、やりとりの連絡は多く、レポート提出も必要、ブランチに送った執行委員会議事録を読んだり理解できるだろうか、というわけです。文書が多すぎはしないか? 私たちはまったく日本語がわからないし、ブランチ役員は英語がわかるのだろうか? しかし、起こり得る障害をものともせず、1984年(昭和59年)6月24日、東京ブランチが誕生したのです。(この6月24日は東京ブランチにとって重要な日ですが、スコットランドにおいてもたいへんな意味をもつ日なのです。1314年のこの日、イングランドから独立を勝ちとったのですよ) 池間さんはいろいろな交渉において意思の強い人でした。池間さんなしでは決してうまく行かなかったでしょう。

そして10年後、東京ブランチは小さな出発から大きく成長しました。送っていただ

いたいろいろな写真からブランチの発展を見ることができましたし、最新版のブリテンによれば 408人の会員がいるではありませんか。ほんとうによくやりましたね。私たちのソサエティは相応の古さがありますが、日本から新しい血が流れ込んでおり、ソサエティにとってこれはたいへんよいことなのです。

東京ブランチとその関連グループはソサエティの真の財産であり、私は日本でスコティッシュ・カントリー・ダンスが発展し続けることを願っています。

ソサエティのために活動している東京ブランチの会員みなさんに、特別な親愛と感謝を贈ります。

Michael Gibson

(ミュリアル・ギブソンさんは RSCDS前セクレタリで、13年間この職にありました。)

<パリ・ブランチからのメッセージ>

Monsieur le Président,

Nous sommes heureux de vous féliciter à l'occasion du 10^{ème} anniversaire du groupe de Tokyo de la "Royal Scottish Country Dance Society".

Lors de nos déplacements dans les cours et bals internationaux, et notamment à St. Andrews, nous apprécions les moments partagés avec les danseurs venues du Japon et de votre section.

Cet anniversaire montre l'universalité de la danse écossaise et de musique qui l'accompagne. Ces dix ans d'activité et de développement sont le gage des succès à venir.

Au nom de tout le groupe de Paris, je vous renouvelle nos félicitations et vous envoie tous nos vœux.

Le Président, Michel VISO

[要約]

拝啓 チェアマン殿

RSCDS東京ブランチの10周年記念をお祝いできて光栄です。

日本のダンサーとは、クラスやインタナショナルなボール、とりわけ St. Andrews で会う機会があり、その資質を高く評価しています。

このアニバーサリーは、SCD とその音楽の国際性を示しています。この10年間の活動とその広がり、東京ブランチの来るべき将来のさらなる成功のしるしです。

パリ・ブランチ全員の名において、この喜びをかみしめ、お祝い申し上げます。

パリ・ブランチ・チェアマン ミシェル・ビゾ

各地講習会の感想がよせられています。

<福岡会場>

九州に東京ランチがきた 土井博子

一人でも多くの方に、スコティッシュの素晴らしさを知ってもらえる、とてもうれしい機会です。仲間も喜んで参加しました（少し不安もあったけど）。

フット・ポジション、パ・デ・バスク、ライト&レフト、アーセット等々……とくに強調されたことは、Eye Contact, Use of Hands, Good Phrasing,そして3rd Position。基本的なことがなかなかできず、ビル・アイアランドさんが両手を目にあて、何か悪いものでもみたような動作をされたときは、会場大笑いでした。ピアノの演奏に乗れない一幕もあったけど、2日目のラスト曲“The Hairrit Man's Favourite”ではジェニファーさんがステキな曲をメドレーで弾き、踊り終わったみんなの顔はすばらしい笑顔でした。

幅広いクラス・レベルにおいての指導、最後に楽しさをつたえるテクニックには、教えられるものがありました。とても有意義な2日間でした。松橋順子さんもご苦労さまでした。参加されたみなさんお疲れさまでした。

(門司SCDC)

パワーと熱意に感激 丸尾晴隆

大分SCDCクラブの会員中、過半数の13名がようやく秋の気配が感じられる福岡会場の講習会に参加することができました。私はこの講習会にひとつの期待を持って臨みました。それは地方ではあまり経験できない本場のすばらしい先生から直接指導を受けられること、これまで疑問に思っていたことがクリヤになるのではないか、ということでした。

ビル・アイアランドさんのあのパワーと熱意あふれる指導、そしてジェニファー・ウィルソンさんが奏でるピアノの流れるような旋律にのって、ここちよい緊張を感じながら講習を終え清ちたりた気分一杯です。また、同行した会員たちの「基本を見つめ直すことができ、ほんとうによかった」、「私にとって目からうろこ現象だったわ」の声が、今回の講習を象徴していたと感じます。

九州での講習会を企画された東京ランチ実行委員会のみなさん、催しを支え、盛りあげてくださった宗像SCDCのみなさんに、会員一同ここから感謝しております。

(大分SCDC)

<長岡会場>

魔術的な指導力 山田としこ

本場スコットランドのすばらしい先生による講習会ということで、私たちは大きな期待に胸をふくらませました。若き日は“アラン・ドロ”か、とよばれた人々を想像していたのに、お見えになったのは“谷啓”、一瞬びっくり！……でもそんなことは、ビルさんの指導が始まるとすぐにふきとんでしまいました。

とても70歳とは思えない躍動的なSkip Chan-

ge of Step, ことばはよく理解できないけれどいつの間にか踊らされているという魔術的な指導力。それにもましてビルさんの熱心さに、私たちもところがしき締まり、一所懸命でした。基礎ステップもしっかり習いました。ジェニファーさんのピアノ演奏も、とてもすばらしいものでした。

最高のピアノ演奏で最高の指導をうけ、一段も二段も自分が成長したような有意義な一日でした。

(アンティーズ)

緊張と熱気の講習会 田中一美

ビル・アイランドさんの講習は緊張と熱気のなかで始まりました。最初、固くなっていた身体も、ビルさんの「良い例・悪い例」を実演されるユーモアあふれる指導と、ジェニファーさんのすばらしいピアノと笑顔で緊張が解け、すっきりとした感覚で抵抗なく動くことができました。耳慣れない外国語も集中して聞くうちに、くりかえされることばが次第に理解

できるようになり、1日だけの講習がとてもなごり惜しくもありました。

今回の講習をとおして改めて基礎（姿勢、ハンドリング、ステップ等）の重要性、カバリング、フレージングの大切さを痛感し、精力的な指導法にこころよい刺激を全身にうけました。

地方にいながらにして、こんなすばらしい講習をうけられるしあわせな機会をつくっていただいた東京ランチのみなさんに、ここからお礼申し上げます。（アンティーズ）

<能代会場>

講習会を終えて 金田孝子

ビル・アイランドさんの踊りの第一歩に衝撃をうけ、続いて真摯できびしい指導にすべてを忘れて夢中で過ごした二日間でした。

参加した人々はみな心から満ち足りた様子で足をひきずりながら帰ってゆきました。

ジェニファーさんのピアノは踊りと一体になって会の楽しさを盛り上げ、会員の一人は、とても贅沢な講習会だったと、感想を述べていました。

ビルさんが「悪い踊り方」と、ステップや踊るときの表情まで、私たちの欠点をとても上手に真似て踊られたことは、どんな説明よりも学びました。さすがにすばらしい講師でした。

松橋順子さんの通訳は、ビルさんの興奮まで伝わるようで、心のこもったものと大変感謝しております。

足に湿布してともしあわせな気持ちです。ありがとうございました。

(のしろ Winds)

基礎に終りはない 塩谷アイ

のしろ Windsの会長、織田淳子が急に病を得たため、講習会が開催できるまで東京ランチにご心配、ご迷惑をおかけしました。

受講者は能代のほか、秋田・盛岡・東京からも参加していただき、53名でした。ビルさんには基礎を重点的に指導していただきましたが、何回受けても毎回得るところが多々あり、基礎をうけるのに終りはない、という感でした。

やさしい踊りばかりでしたので順序に追われることなく、基礎を忠実に大きなステップで思いつき踊れたせいか、大満足でした。

ほとんどの人が翌日は足が痛くて、ひどい格好だったようです。本場の指導者から英語で指導を受けるのは初めて、という人達はほとんどなので、皆さんとっても緊張していました。どんなビデオをいくつ見るよりも有益だったという声もあり、貴重な体験の場を作ってくださったことに、受講者一同感謝しております。

(のしろ Winds)

<岐阜会場>

忘れるなこの幸せを 松原智恵子

なんの違和感もなく、ピアノのリズム、快い

音楽が身体の周りにあふれていて、思わず動き出してしまう。少々息がはずみそうになり、足が動かなくなりそうになっても、それでも楽し

かった。

それは、あのピアノ、音楽、ビルさんの情熱。まさしくScottish Country Danceの楽しみでしょう。いまでもビルさん、ジェニファーさんに惜しみない拍手を送ります。そして、こんな機会が与えられ、皆さんに出会えたことを心から感謝しています。

この日のために、急速譜をよみ始め、おぼつかないコードをひろい、メロディーを練習し、両手を合わせて……毎日の練習が始まりました。そして前日の音合わせのとき、ジェニファーさんの演奏を目のあたりにして、あまりの速いにショックが大きく、その夜は興奮して眠れませんでした。私自身、決してうまく弾いているとは思っていませんでしたが、ぜんぜん違うのです。いまあらためて思えば、たしかにあの私のピアノ、音楽では踊れないし、私自身踊りになっていないと痛感しました。

Up, down, downのPas de Basque に始まり、それに続くSkip Change of Step のあのなめらかさ、軽やかさ、そしてdown, Step, Close, Step, hop の力強さと身体にしみとおってゆくStrathspeyの優雅さ。いあまでにない新鮮な感じでSCDを素直にうけとめられたと思います。

よかった。生の演奏、ダンスに触れられてほんとうによかった。

今回の機会を大切に、踊りにピアノに新たな気持ちで自己を見つけてゆきたいと思います。そして皆さんと共に楽しみましょう。もう一度大きな拍手を送ります。皆様ありがとうございました。(岐阜SCDC)

すばらしい生演奏 坂本一夫

ランチ10周年記念の岐阜での講習会、松橋順子さんがおっしゃられたとおり、たいへんすばらしい先生でした。私自身ひさしぶりの講習会で、多少不安なところもありました。ふつうであれば講習後半には足が痛くなったり、いろいろトラブルが出てくるのです。しかしビルさ

んのゆきとどいた気配りと指導のおかげで、いつの間にか曲が終っているといった具合で、最後までたいへん快く講習を受けることができました。あらためて自分たちの指導の甘さ、未熟さといったことを考えさせられました。

またジェニファーさんのピアノにどれだけ励まされたことか。ふだんレコードやテープに慣らされているせいか、生の音楽がこんなにすばらしい(ジェニファーさんだったからかもしれないが)とは思いませんでした。

お二人の息の合ったところも、さすがスコットランドの指導者とピアニストだと感激した次第です。ビルさん、ジェニファーさんの講習がこんどは金沢で行うことができれば、と思います。

すばらしい講習を受けることができ、本当にありがとうございました。(金沢SCDC)

刺激を受けた二日間 高橋朝子

今回は私にとって初めて受ける講習会がスコットランドから招かれた先生ということで、とても楽しみにしていました。

実際に講習を受けてみて、ビルさんのバイタリティーあふれる指導と、お年を召されているとは思えない軽やかなステップ、ジェニファーさんの息の合ったピアノに、私はとても感激しました。

私たちの緊張した雰囲気をはぐしながら、しかも気迫が感じられ、負けてはいられないという気持ちで集中して受けることができました。これは講習を受けた全員の気持ちであったと思います。いろいろな意味で一人一人が刺激を受けることができ、充実した二日間でした。

SCDを始めてまだ数年の私には、ビルさんやジェニファーさんにはとても叶いませんが少しでも近づくことができるよう、ステップやフォーメーションの細かな点に気をつけながらこれからも楽しんで踊っていきたいと思います。

(岐阜SCDC)

<東京会場>

実り多い2日間

深井てる子

初参加の合宿でしたので、多少不安な点がありました。指導していただいたビルさんにお会いしたら、それもすぐに解消されてしまうくらい素晴らしい方で、実り多い2日間でした。言葉による説明の後、実際に踊ってみせ、清面に浮かべる笑顔と、相手への表現の伝え方のいい見本と、下を向いて能面のような悪い見本のギャップには、思わず会場が笑いの渦となりました。指摘されてまったくそのとおりです。

Book 38 をはじめとした踊りを、会場のすみずみまで目配りして、どここの位置にいても、程よい緊張感を保っていること、3組～4組目にいるひとは、前のひとたちの動きを頭で覚えてスムーズに入れるようにすること、セットの大きさにも注意等々……いつもそれぞれの例会で指導されていることなのですが、頭でわかっていても行動に出すのは、むずかしいことだと

改めて思いました。夜、アメリカ・サンディエゴ・ブランチからやってきたマージョリー・マクラフリンさんによる講義“スコティッシュ・カントリーダンスの歴史”があり、池間博之先生がユーモアを交えてわかりやすく分析しながらの通訳・説明は、引き込まれていく迫力のあるもので時間がもっとあったら……と思われました。

ピアニストのジェニファーさんの指使いひとつで、同じ音楽でもステップに与える響きの違いに、タイミングよく練習できるように音を出す絶妙の指導者とのコンビネーションがあたりたつものだということ。また、リール、ストラスペイ、ジグの曲の見分け方の感覚はまだまで、私のこれからの課題のひとつです。

10周年の記念のTシャツも、ピンクと紺色お揃いで“楽しく踊ろうよ”と呼びかけられるデザインで、応援しているんですけども、もっともっと踊りの輪を広げたいと思います。

(浦和SCDG)



東京会場での“My Friend Joe” 練習風景

EAST OF THE SUN

A 32 bar Jig for 3 couples in a 4 couple longwise set.

- 1- 4 1st couple dance a half figure of eight round 2nd couple to finish in the centre of the dance facing 2nd woman.
- 5- 6 Taking promenade hold, 1st couple set to 2nd woman.
- 7- 8 1st couple set to 2nd man.
- 9-16 1st couple, still in promenade hold, dance a reel of three across the dance with the 2nd couple. To begin, 1st couple and 2nd man pass right shoulders. On bars 15-16, 2nd couple curve up to the top and face in; 1st couple dance down to finish in 2nd place in the centre.
- 17-20 1st woman dances right hands across with 2nd and 3rd men; 1st man dances left hands across with 2nd and 3rd women.
- 21-24 1st couple dance down between 3rd couple, divide and cast up to meet in the centre. 1st couple finish with right hands joined ready to give left hands to 1st corners.
- 25-26 All balance in line.
- 27-28 1st couple turn with right hands to finish between 2nd corners.
- 29-30 All balance in line.
- 31-32 1st couple turn with right hands to 2nd place on own sides.

Repeat having passed a couple.

Roy Goldring

*Dance devised by Mr Roy Goldring, July 1994.
To celebrate the 10th Anniversary of Tokyo Branch.*

<東京ブランチのみなさんへ>

ビル・アイランド

A letter from Mr Bill Ireland.

To travel to the other side of the world is an interesting experience. Having reached Japan, to travel some two and a half thousand miles to meet to classes in five centres was a doubly interesting, in fact educational, experience for me.

I was fortunate in having Jennifer Wilson with me to play for the classes. I am sure that all, who attended the classes, greatly appreciated her sympathetic expertise as a class pianist, as well as enjoying dancing to her compelling music.

べつの世界へ旅するというのは、おもしろい経験です。2,500 マイル(4,000km) を旅して日本につき、5つの会場でクラスをやったなんて、私にとっては勉強になったというどころか、倍もおもしろさがあった経験でした。

各クラスで、ジェニファー・ウィルソンとともに過ごせたのは幸いでした。ダンシングを楽しむときの、彼女の人を動かさずにはおかない音楽と同様、クラス・ピアニストとしてジェニファーのこれ以上望みようがない適格な判断力と、気心の合った職人わざに、私はすべてをまかせていました。

ティーチングし、日本語による説明があり、踊りのなかのやっかいな部分を提示し、そして私は考えつくかぎりのデモンストレーション、道化役、そしてなんどもパントマイム、というやりかたをとったのです。私はいたるところで、注意深くて反応しやすいまなざしを感じとっていました。いちど遠慮が取り払われると、ユーモアは万国共通のことば、とまなざしが返ってきました。

興味深く、かつ意外なことに、日本人はジグ、リールよりもストラススペイのほうが上手に踊れるのです。速いテンポのダンシングでは真のフライトが欠けており、したがってもっと躍動的であることが望まれます。これには二つの原因があると思います。ひとつはセットがせますぎること、もうひとつは録音音楽でのダンシングであるため、そのスピードが適正でないということです。また、私はそこに生まれつき無口で、ひかえめな社交性をみました。これは私にとっても、スコティッシュ・ダンシングの楽しさと喜びの一つでもあるわけですが、私はダンシングが、

ワイド・セットで (Wide Sets)

フライトし (Flight)

もっと外に向かって発散するスタイル (More Outgoing Style)

となるよう、強く求めました。みなさんがこういったよけいな注意を受けずにすむよう、願っています。総合的には、ダンシングの一般的規範(スタンダード)は、良好であったといわなければなりません。英国における多くのブランチが、日本のダンサーと同じくらい高いスタンダードを示せるなら、たいへん喜ばしいと思います。

この2、3年のあいだに私は数回のティーチング・ツアーを経験していますが、ジェニファーとともに日本でうけたようなホスピタリティ（もてなし）とジェネラシティ（気っ風のよさ）には、かつてお目にかかったことはありません。疲れた足へのマッサージを含め、必要なことはすべてかなえられました。多くの名所をおとずれ、摩訶不思議な食事をたくさん味わい、加えて日本の家庭で宿泊できたのはたいへん愉快でした。

私はクラスに参加した淑女の集団に始めから終りまで見つめられ、完全に圧倒されました。英国生れにとって気候は暑く、われらの女性軍の一人、あるいは別の人から、首筋にあてられる冷たいタオルはたいへん気持ちよかったですね。いつも、いきなりびしゃり、でしたけれど。

全旅行中、私たちの友人であり、顧問であり、ガイドであったのは松橋順子夫人でした。私たちはこのことと、彼女が実行してくれたすべて（つまり、ツアーをアレンジし、ランチ10周年を記念するこの驚くべき行事に、私たちを招いてくれたことです）に対し、ほんとうに感謝しています。

東京ランチのみなさん、ありがとう。私はこのつぎ、100周年記念もみなさんとともにありたいと思っているのです！

<RSCDSチェアマン、ジョージ・ローソンにきく>

聞き手 レイチェル・ウィルトン（ロンドン・ランチ）

1994年11月のソサエティ年次総会において、前3年間副チェアマンをつとめたジョージ・ローソンが新チェアマンに選出されました。ジョージはグラスゴー・ランチのトレジャラ（会計）を2回経験し、現在は同ランチのチェアマンとして2期目に入っています。もちろん RSCDSのティーチャー、エグザミネー、アジャディケイタ（審査員）でもあります。彼のスコティッシュ・カントリー・ダンスへの想いとソサエティへの抱負をききました。

—— SCDを始められたきっかけは。

ジョージ 若年兵として義務兵役に就いていたときです。レスターにいたとき、兵営の外から通っていましたが、地元紙に載った金曜夜のSCD案内を見たのです。ファイフに帰って、最大の関心をもって続けるべきであると感じ、楽しむことができました。でも私が小さかったころの音楽とダンスは、スコティッシュのそれだったんですよ。父は、若いころ農場に住んでいましたが、よくジミー・シャンド（炭鉱労働者で失業中でした）が訪ねてきたんです。大きくなって、結婚式や収穫祭に出ましたが、そのプログラムには "Petronella", "The Dashing White Sergeant", "Waltz Country Dance", "Canadian Barn Dance", "Eightsome Reel" などがありました。ケイリ・ダンスではなくて、リーリングやオールドタイム・ダンス、SCDで構成されていました。音楽はスコティッシュ風ではなかったですね。踊り方は素朴でしたが、勝手気ままではなく、お年寄りにも合っていました。

—— 副チェアマンになられたときの感想は。

ジョージ たいへん光栄に思いました。みなさんが、これまでに築いてきたソサエティの功績を無

にしたりしないと確信していましたし、しっかりした基盤があったためだろうと思います。世の中は常に変化しており、私たちの目的のひとつは、楽しめる余技としてSCDを発展させることにあります。私は、ミス・ミリガンらによって着想されたこのコンセプトにもとづいて、過ぎていく一瞬一瞬に寄与したいのです。

—— ソサエティの全会員へのメッセージをお願いします。

ジョージ ひとりでも多くの人に、ソサエティの存在とその目的を紹介していただきたい。そして私たちの組織が全世界におよんでおり、どんなに有益かを示していただきたいと思います。SCDを楽しんでいるけれど、RSCDS についてはなにも知らないという人が大勢います。ミセス・スチュアートとミス・ミリガンが始めたときはわずか27名、それがいまはみなさんがご存じのような組織になっています。このことが忘れ去られようとしていないでしょうか。私たち一人一人にその任があり、他に委ねることはできません。ロンドン・ブランチがどんなふうに会員を増やしていったか、考えてください。私たちのソサエティであり、全会員は明日のソサエティに対して責任を負っているのです。

—— チェアマンとして、緊急に取り組むべき事柄には、どんなものがありますか。

ジョージ まず、スコットランドの慈善事業法に関連する新体制です。体制変更を要しますが、ソサエティの強化と目的の復興に、この機会を活用しなければなりません。私たちは、ソサエティにとってなにがベストか、SCDへの熱情と新しい役割をどのように適応させていくかを考えなければならぬのです。ブランチとソサエティの一心同体を存続し、各ブランチ間、ブランチとソサエティ間で生まれたアイデア、経験、業績を共有していかなければなりません。

ついで、若年層に私たちの存在と真の目的を浸透させることです。RSCDS はすばらしい存在であり、世界各地に25,000人の会員がいるのです。ソサエティは4年後に75回目の誕生日を迎えますが、たんなる年輪ではない75周年をつくりあげていこうではありませんか。

—— あなた自身、どのような会員でありたいと思っていますか。

ジョージ ミス・ミリガンがソサエティの規範をつくったわけですが、私はこれを継承していくひとりのリーダーでありたいと思っています。ダンシングは私にとって人生の大きな関心事であり、私の家族がともに踊っていることに誇りを持っています。

かつ、私は本部スタッフ、専門委員会の一員であることを考えなければなりません。

—— 荒っぽくてお手軽なケイリ・ダンシング(ceilidh dancing)をやっている人々をソサエティに引き寄せるのに、私たちはどうすればよいとお考えでしょうか。

ジョージ 私たちはケイリ・ダンシングを否定しておりません。しかしこれに甘く対応すると、私たちのダンスがあいまいになり、退歩につながってしまいます。ケイリ・ダンシングを楽しんでいる若い人たちが大勢いますが、それ以上の楽しさがもう一方のダンスにはあるのだということ、そういった人たちに示せるよ



George Lawson with his wife, Nan, and daughter, Jennifer

う、なんらかのやりかたを見つけなければなりません。

—— 若壮年層をSCDに巻き込んでいくには。

ジョージ 若壮年層は、家庭と仕事の責任を果たすのに忙しい世代です。私たちがなすべき活動とは、もっと積極的に子供たちを踊らせることです。そうすればSCDは幅広い世代を引きつけることができ、ダンサーズ・ファミリーをつくることにつながります。この問題は、きょうに始まったことではありません。若壮年層は高いレベルに達することが可能であり、その人たち自身、肉体的・社会的に楽しさをさらに広げることができるのです。私たちは、ダンスへのきっかけがつかめるよう、若壮年層に対して活動し続けなければなりません。これはランチ間で有益なアイデアが交換できる分野でもあります。

—— RSCDS の会員は、お金がかからないやりかたで踊っているでしょうか。

ジョージ SCDは伝統的に金がかからないものなのです。会場さえあれば、レコード・プレイヤーさえあれば、という熱狂的なティーチャーばかりで、ミュージシャンもしかりです。赤字にならない限り、手にするお金でがっかりするものなどありません。にもかかわらず、RSCDS 会費実費を払いたがらないダンサーがいるなんて、私は理解に苦しみますね。

—— RSCDS の指導者認定は、人生におけるひとつの資格ですが、レベルを維持し、技術(skill)を向上させるにはどのようにすべきでしょうか。

ジョージ ティーチャーは、ソサエティから課せられた規範を維持するうえで、大きな責任を負っていますし、その向上に積極的になければなりません。テクニックの向上は踊る楽しさをふやすことにつながります。試験委員会、サマースクール委員会は、トレーニングをその実施項目の一つとして活動しています。各ランチもまた、ティーチャーを支援することがその機能の一部なのです。各ランチは、学んだものが発揮できる場を新人のティーチャーに提供し、そしてランチに属する各グループで生まれたティーチングのアイデアや方法を、たがいに交換できるように仕向けることが大切です。

古株のティーチャーは豊かな経験の裏打ちがあり、提供するものをたくさん持っています。ソサエティの多くの経験を引用したり、参照したりすることができ、有効に利用すべき存在です。

—— ソサエティが新しいダンスブックを継続発行する理由はなんでしょうか。レパートリをふやすよりも、いろいろな規範を向上させるほうに、力をそそぐべきではないでしょうか。

ジョージ 新しいダンスがなかったら、ソサエティは死んでしまいます。クラスに行こうというひとはいなくなります。テクニックを指導する場は失われ、新しいメンバーも入ってきません。ダンスの面だけではありません。新しいダンスは、音楽の分野でもいきいきした状況をつくっているのです。私たちはすばらしい才能を持ったミュージシャンたちを擁しており、これはたいへん幸運なことといわなければなりません。ミュージシャンは新しいダンスに対して、創造力あふれる曲をつくること、そして古くからあるトラディショナル・チューンならなにを使ったらいいか、心を砕いているのです。

—— ありがとう、ジョージ。たくさんの成果を期待しています。

("An Interview with George Lawson, RSCDS Chairman" from London Branch Newsletter "the reel" No. 210, December 1994-February 1995).

Book 38 Dancesの留意事項

1994年 8月、Summer school においてTeacher, Mrs Johan McLean から指導されたBook 38 Dancesの留意事項ならびに Johan流の踊り方を以下に述べます。留意事項であり、このとおりにしなければならない、ということではありませんが、参考になると考えます。

MY FRIEND JOE

- Bars 4 Pivot において左足を右足にからめる必要はない。
8 最後の 2 Beatsで Ready for allemande. ………Johan ならではの事項。
16 2nd coupleはLong way (Curved) round して1st place に。(解説のとおり)

FOLLOW ME HOME

- Bars 9-10 はじめは Cornersと、ついで Partnerと顔を合わせる。
11-16 Bars 11 でTurn first corners half way round with the right hands
(2 barsではなく)、ついで Bars 12-16 (5 bars) のChasing にうつる。

BACK TO THE FIRESIDE

- Bars 19-20 このPetronella turningにおいて、1st and 2nd couples は Side lines に戻らない……Set の内側でDance a petronella。
65-72 4th coupleは small stepsでDance down, set to each other and dance up to the top. At the same time, original 1st couple step down to 4th place.

MR ROBERT H. MACKAY

- Bars 8 1st woman はSet and linkのあと、完全にPolite turn してFace down し、ついで Reel of threeにうつる。(解説のとおり)
63-64 4th coupleはTurn partner with both handsしながら 3rd placeへ。

MISS FLORENCE ADAMS

- Bars 7- 8 1st coupleがDance a petronellaしているとき、2nd and 3rd couples は Setting をつづける。(解説のとおり)
31-32 1st corners との Pass and turnのおわり、1st coupleは手を取りあうことなく Own sides に戻る。

A TRIP TO THE DRakensBERG

- Bars 20 Half reel of four のおわりにおいて、1st couple passing left shoulders each otherで Facing 2nd corners.
Diagonal half reel of fourにおいて、なにも記述がない場合、RSCDS では Passing left shouldersである、とのこと。

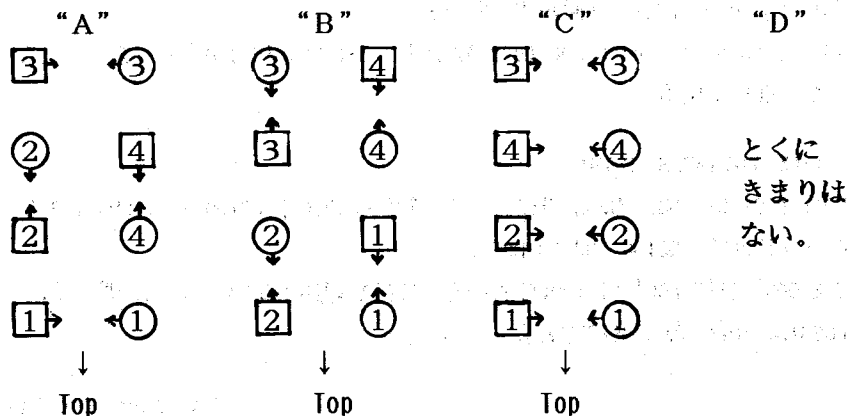
By Tom Toriyama

会員名簿訂正・変更（変わったところのみ記載）

雨宮紀世子		青葉区荏田町297-3-222		(種別変更)
新井演子	862	熊本市楠7-1-27	096-339-1075	(情報充足)
荒水靖隆				(誤記訂正)
池間悦子		青葉区青葉台1-11-4/12-308		(種別変更)
池間博之		同上		
上田貴子	860	熊本市麻生田2034-5	096-338-9826	(情報充足)
川分康博	611	宇治市小倉町西畑34-1/511	0774-20-4496	(転居)
川分圭子		同上		
木藤広子	226			(種別変更)
佐久間恵子	179	練馬区高松2-26-6/306	03-5241-482	(転居)
須田博美	270-01	流山市東深井948/402	0471-53-8619	(転居)
武井 徹		所沢市西狭山ヶ丘1-240-4		(誤記訂正)
中村英子	860	熊本市清水町楡木2116-7	096-338-1814	(情報充足)
長野ルミ	862	熊本市武蔵ヶ丘2-11-7	096-338-6640	(情報充足)
野村ヒフミ	862	熊本市楠2-8-3	096-338-4647	(情報充足)
前田袈裟余	862	熊本市出水6-39-45	096-362-0211	(情報充足)
松原智恵子			058-387-5206	(種別変更)
森村寛司		青葉区美しが丘1-18-2-402		(種別変更)
Mrs Atsuko Clement			+44 1848-330-671	(種別変更)

SCDクイズ（第3回）

"The Glasgow Highlanders"で、終りのBow and Curtsey はどこの位置(places)で行なうべきでしょうか。下図のうち正しいと思われるものを、はがきに記号で書いてお送りください。この場合のダンス回数は 8 times-throughです。各グループであたまをひねり、みなさんそれぞれからのご応募を期待しております。



正解者3名のかたにスコティッシュ音楽テープ“スコティッシュ・トランキリテイ”をさしあげます。(ピアノとオーケストラがスコットランド歌曲を演奏しているテープで、この音楽を聞くと、ひび割れた心も元どおりになるという不思議な効果あり)

解答宛先：222 横浜市港北区篠原北 1-28-25 鳥山とよき

締切り：95年1月20日(消印有効)

発表：次号ブランチレター

レターNo.26のクイズ、RSCDS 盤の"Miss Gibson's Strathspey"はつぎの4曲からなっており、正解は『B-C-E-F-C-E-F-B』でした。

B. Music o'Spey

C. Annie Laurie

E. Cradle Song

F. Will Ye No' Come Back Again ?

つぎのかたに賞品をお送りしました。

渡辺美千代(金沢市)・風間英子(与野市)・小海弘子(長岡市)

"Hills of Lorne"は1947年にチャーリー・ハンター(アリスティア・ハンターの父)が作ったスロー・エアで、あとからハメコミでつくられた歌詞(アン・ギリーズ作)もある。Book 31 "Autumn in Appin"のオリジナル・チューンである。"Coilsfield House"はナサニエル・ゴウ作の美しい曲。RSCDSのカセット "Songs and Music of Scotland"でその旋律をきくことができる。ボビー・クロウ・バンドは、"The Lea Rig"のサポーティング・チューンとしてヤンガーホールで毎回これを演奏していた。"John Stephen of Chance Inn"はアングス・フィチット作曲の比較的新しいストラススペイ。サポーティング・チューンとしてよく使われている。ニール・バロン・バンドのカセット、"Music for Scottish Dancing"の"A Set of Strathspey" 6曲目でリズムカルに演奏されている。

ロバート・バーンズ絵はがき集の紹介

1996年は国民的大詩人、ロバート・バーンズ(1759-1796)の死去200年にあたるため、スコットランドでは各地で大がかりな催しが企画されています。すでにいろいろな記念品が発売されつつありますが、バーンズの生涯と作品を420枚の絵はがきで描いた本が600部限定出版されましたので、入手ご希望のかたはお申し込みください。

"The Deltiology of Robert Burns" by Peter J. Westwood

(Peter J. WestwoodはThe Burns Chronicle バーンズ年代記の編集者)

A4判 152ページで、実物大のクラシカルな絵はがきを用いてバーンズの生涯と作品を紹介しています。もちろんカラー版。解説は英語。

はがきに『バーンズ絵はがき集 O冊 希望』と書いて、

336 浦和市太田産 2000 松橋順子あてお申し込みください。

送料込み1冊 ¥4,000 の予定(英国から入荷後、本に同封した振替用紙でご送

金ください。申込み時の送金は不要です)。

締切：95年1月15日ですが、11月末で400部以上が売約済とのこと、
まったく手に入らないこともありますので、ご承知おきください。

バンクーバー・ブランチでウィークエンド・クラス

カナダ・バンクーバー・ブランチからウィークエンド・クラスの案内が送られてきました。

1995年5月5日(金)～6日(土)

ホイッスラー・コンベンション・センタ(ブリティッシュ・コロンビア州)

講師：ボブ・ブラッキー、メリー・マリー、ロン・ウォリス

音楽：ボビー・ブラウン&スコティッシュ・アクセント・バンド

会費：125カナダ・ドル(¥75/C\$換算で9,400円)

このほかに宿泊費：1泊につきC\$30(2人部屋)またはC\$20(4人部屋)

記念品代：ポロシャツC\$25(要予約・買わなくてもよい)

東京・バンクーバー往復航空運賃：約16万円(エコノミー・クラス)

幹事役となってお活動いただけるかた、どなたか立候補してくださいと幸いです。くわしい案内書はセクレタリまで。

3月、サンディエゴ・ブランチのウィークエンド・クラスで、メリー・マリーさんに再会した数人の東京ブランチ会員がいたことが縁となりました。サマースクールで『あなたたちサンディエゴまで来るのだったら、こんどはバンクーバーに来てよね』と、メリー・マリーさんからとくに依頼があったものです。10周年特別クラス<東京会場>のゲスト、マージョリー・マクラフリンさん(サンディエゴ)からも『バンクーバーに来なくちゃだめよ』と念押しされました。ご計画ください。

新カセット評

1. "Coronation Book" Music for Book 17 by Alastair Wood and his Band.

Book 32 (1985)、Book 34 (1986)用音楽につづく、アリスティア・ウッド(アコーディオン)のバンドによるRSCDS 第3回目の録音である。LPでは3曲が外されているが、このカセットは全曲収録している。そのかわり解説カードに余地がないため、構成メンバー名も録音エンジニア名も載っていない。音色からいってBook 32、34用音楽とほぼ同一のメンバーであろう。

Book 32音楽でアリスティア・ウッドはエコーの効いた高音部がきれいな演奏をやっていたが、ドルビーなしで再生すると金属的な音になり過ぎ、"Miss Nancy Arnott"を8回全部踊るとげんなりするほどであった。このBook 17用音楽ではエコーはすくなく、ピアノも加わっているためやや平板な印象をうける。しかしこのほうが何べんきいてもあきがこないといえる。Book 17のダンスはむずかしいのがそろっていてパーティ向きといえないが、"Lucy Campbell"や"Gentle Shepherd"

など、例会でつかうのに適した踊りで、このカセットの発売は十分に意義があると思う。

演奏★★★★

録音★★★★

2. "Music for Book 38 Dances" by Muriel Johnstone and her Band.

RSCDS の音楽小委員会をまとめているミュリアル・ジョンストンのバンドによる RSCDS 初登場の演奏である。500 本のカセットがたちまち売り切れになったが、初回製造ロットのハーフ B 面は "Book 39" と印刷されていたり、多少速成の気味があった。

上記 Book 17 の曲はすべてトラディショナルであったけれど、これはミュリアル自身の譜による音楽が含まれている。"Miss Florence Adams" におけるアコーディオンはちょっと苦しげであるが、総じて RSCDS スタイルの楽しめる演奏である。

一般的な楽器構成にフルート (アンジェラ・ヤング) も加わり、六重奏の豊かな音色のはず。しかしながらリーダーのピアノがほとんど聞こえず、アコーディオン、フィドル、ドラムスばかりが聞こえるトラックが多いのは、録音エンジニア、M. セダーグレンの好みかあるいはミスか。実際に踊ってみるとピアノの有無はまったく気にならないが、リーダーとしては文句のひとつもいいたいところで、このカセットのできばえにミュリアルからクレームがついたのもうなずける。ミュリアルのピアノを聞きたい人は、Book 38 ビデオをどうぞ。余談ながらビデオはなかなかのものですぞ。

演奏★★★★

録音★★★★☆

3. "A Dancer's Miscellany Vol. IV" by Muriel Johnstone and her Band.

Side A: Lady Dumfries(32R), Merry Oddfellows(32J), Marquis of Lorne(32S), Rosnor Abbey(32J), Brechin Lassies(32R).

Side B: Invararay(32S), Miss Margaret Hill(32J), Lady Lucy Ramsay(32S), Anderson's Rant(32R).

ミュリアル・ジョンストン・バンドによるミセラニー・シリーズの最終巻である。この Vol. IV の完成で "Milligan's Miscellany" 所載の 77 ダンスのうち、36 の音楽がカバーされたことになる。また Vol. I - IV の音楽を流用すれば、"Milligan's ……" の踊りはほとんど踊ることができよう。

昨年 Vol. III は五重奏団であったが、これにロニー・カリーのベースが加わり、カラフルさは変わらず音に厚みが増している。リールとジグはこのバンド特有の音色である。そしてストラススベイには工夫がこらされている。"Marquis of Lorne" はフィドルのマルチ・レコーディング (3 回) にピアノ、ベースの構成で、昔のサロン風演奏をねらったもの。"Lady Lucy Ramsay" ではピアノとフルートのインタープレイが楽しめる。この 2 曲は踊るのもよいが、リスニング音楽としても楽しめる。Very Advanced Class のダンサーならばこの演奏にダンシングの楽しさを上乗せできるが、ふつうのひとにとってはどうも間延びした演奏で、やさしいダンスだけに、

ちっともよくない結果となろう。"Invararay"はこのダンスのベスト・レコーディングといえる。

ミセラニー・シリーズ全4巻とも録音は中弱音量であり、例会リーダーは最適音量となるようプレーヤーのボリュームに留意しなければならない。

このカセットはBook 38 音楽とまったく同じメンバーによる演奏であり、ピアノとフルートが縦横に活躍し、RSCDSの監修がないとずいぶん違った演奏方法になる、という好例である。 演奏★★★★☆ 録音★★★★☆ (Tom)

ミュリアルからの手紙では次作はアコーディオン、フィドル、ピアノを主にしたボーダー地方の音楽からなり、タイトルは『国境の南』ならぬ『ツイード川の北』"North of the Tweed"、いくらかダンス曲(それもデモンストレーション・チーム用)はあるけれど、リスニングを目的にしたCDであるとのこと。

新ダンスブック紹介

"20 Scottish Country Dances by ALEC HAY - Book One"

Published by the Howick Scottish Country Dance Club (Auckland, N.Z.)

昨年の7月、81歳で亡くなったアレック・ヘイの作品集である。アレックは『自分が満足すればいいんだから』あるいは『自分のグループが楽しんでくれればそれでいい』と、いくらすすめられても作品集刊行を認めなかった。彼の死後、Howick SCDC(死の3日前まで、アレックはここで33年間指導していた)はすべてのダンスを受領し、18世紀・19世紀のダンスが今もなお親しまれているように、後世にアレックのダンスを残すのが使命である、として刊行を決めたものである。

アレックの200におよぶ作品のなかから、1957年から1992年までの20曲が年代順に収められている。ダンスに適したレコードの指定があるが、バート・ショートハウス楽団の"Gay Gordons"といわれても、ふた昔もまえに廃盤となっている音源を使うのは、ことに日本では不可能にちかい。そのときは各リーダーが最適と考える演奏でよい、と述べている。ただし"The Whistler"のみは指定曲以外の演奏ではムリ、となっている。

20曲いずれも踊りがいのあるダンスで、アレックがそれほど頑固でなければ、このうちのいくつかはRSCDS Bookに採りあげられていたのではないか、と思われるものがある。

入手ご希望のかたは、送料込み1冊 600円、

郵便振替で『アレック・ヘイ・ブック〇冊希望』と書いて、

00170-8-160278

鳥山 とよき

までお申し込みを。

ブランチショップ案内

RSCDSのカセットテープ、ブック、アクセサリがお求めいただけるブランチショップを開店いたします。品物の内容と値段は、ブリティンNo. 72の“メンバーズ・プライス・リスト Members' Price List” (p.72-78) をご覧ください。

わりあい重要なブック、音楽にもかかわらず、いままでほとんどご注文実績がないものがあり、この機会にご紹介しておきます。

- ・ Index to RSCDS Dances RSCDSの全ダンス約 600曲のタイトルをABC 順に記載し、どのブックにあるか、Reel, Jig, Strathspey の区分、ダンスの長さ (32小節か40小節か) をインデックスにしてある。Book 38 ダンスまで含んでいる。A5判 (マニュアル・サイズ) とポケット判サイズがある。小さな字で、どちらも読みにくさには変わりはない。
- ・ Index to Formation.....上記と同じく RSCDSの全ダンスのフォーメーションをBook番号順に記載したもの。たとえば Allemandeは、1 couple から4 couples まであり、それぞれどのダンスに含まれているか、R, J, S かの区分がのっている。ただしやさしいフォーメーション (例: Down the Middle and Up, Rights and Lefts, Hands Round, Hands Acrossなど) はのっていない。このインデックスをもっていないとリーダー失格を問われるし、資格試験を受けようとする人には必携である。Book 37 までのフォーメーションを記載。マニュアル・サイズ。
- ・ Syllabus for Teaching Beginnersビギナーに SCDを指導するときのガイド。どんな踊りがよいかとか、レッスンプランの具体例 (細かい字で読みにくい) を述べている。
- ・ Songs and Music of ScotlandRSCDS のスターたちが最高の技を発揮し、スコットランドの歌・音楽を演じている。著作権問題を避けるため現代の曲はないが、スコットランド歌曲の広がりを感じることができる。

入手ご希望のかたは同封の注文書に必要事項を記入され、セクレタリにお送りください。代金は郵便振替でお送りください (合宿会費と同時送金可)。

- 注1. LPは国内配送が困難なため、ご注文はご容赦ください。
2. 音楽テープはカタログ右端のテープ番号を併記してください。
3. ビデオは日本ではVHS NTSCのみが再生可能です。

注文締切り 94年1月末日 (消印有効)

現品発送 4月上旬予定です。

事務局から

○ランチ10周年記念品のうち、つぎのものを在庫しています。ご希望のかたは郵便振替でご注文ください。送料別。

Tシャツ (サイズLのみ)	¥ 1,500 (150g)
バナー	¥ 500 (30g)
記念誌	¥ 500 (70g)
記念ダンスブック	¥ 300 (55g)

送料	50g まで	¥150
	100g まで	¥200
	250g まで	¥300
	500g まで	¥450
	501g 以上	¥700

振替口座番号 00160-9-64023

加入者名 RSCDS東京ランチ

(合宿参加申込みと同時送金可)

○前号ランチレターNo.26と10月1付ランチニュースでお知らせしたブックとカセットは、11月中旬までにぜんぶお送りしました。Book 38カセットその他はお申込みが殺到し、準備数140本に対して合計230本の注文となり、急遽RSCDS本部などへ追加注文しました。本部はウィスキーのボール箱など、ありあわせの包装材料を使うものですから中身はぎゅうづめ、郵送途中でカセット・ケースの破損が多発し、接着補修しました。補修ケースをうけとられたかた、ご容赦ください。

Book 17カセットなど、いくらかの余裕品があり、ランチ合宿でお分けします。

○1995年7月24日 - 8月21日のRSCDSサマースクールの申込書(含む資格試験願書)をとりよせます。ご希望のかたはセクレタリまで電話、はがきでお申し越しください。本部からの入手予定は1月上旬です。

○3月のランチ合宿で来日するプリスコ夫妻ならびに“テルアシコラ”の2人は合宿終了後、つぎのとおり空き時間があります。

3月28日(火)	できれば『自然豊かなところ』の希望ですが、こだわりません。
29日(水)	
30日(木)	

SCD講習を希望されるグループはセクレタリまでお知らせください。

○英国では電話・ファックス番号体系の変更が行われ、リーズ、プリストル市などでは大幅な番号変更がありました。本部も(日本からかける場合)+44-131-225-3854が新電話番号です。しばらくは旧新両方が使用できます。ご参考まで。

○本号は各種記事満載の特別号となりました。このつぎは3月末に発行予定です。

PRしたいこと、レターへの感想ご意見など、なんでもセクレタリまでお寄せください。

We wish you merry Christmas
and happy New Year!

RSCDS 東京ランチレター 1994.12.20号
RSCDS東京ランチ
セクレタリ 掛川純子 0480-33-3494
345 崎・宮代町宮代台 3-4-14